

WAトータルリターン・オポチュニティーズ

ケイマン籍オープン・エンド契約型公募外国投資信託

米ドル(毎月)クラス 米ドル(年2回)クラス 円(毎月)クラス 円(年2回)クラス

交付運用報告書

作成対象期間

第9期(2023年4月1日~2024年3月31日)

受益者の皆様へ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。

さて、ウエスタン・アセット・オブショア・ファンド・シリーズ-WA トータルリターン・オポチュニティーズ(以下「当ファンド」といいます。)は、このたび、第9期の決算を行いました。

当ファンドの投資目的は、主としてその資産をWA マクロ・オポチュニティーズ オルタナティブス・ファンド・エルティエディー(以下「投資先ファンド」といいます。)に投資することにより、長期のトータル・リターンを受益者に提供することを追求することです。投資先ファンドの投資目的は、規律ある運用に基づく長期的なトータル・リターンの最大化です。

当期につきましてもそれに沿った運用を行いました。ここに、運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

ファンドの運用報告書(全体版)は受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

その他記載事項

運用報告書(全体版)は代行協会のウェブサイト(<https://www.sc.mufg.jp/products/trust/index.html>)の「外国投資信託運用報告書」にて電磁的方法により提供しております。

クラス名	第9期末		第9期	
	純資産総額	1口当たり純資産価格	騰落率	1口当たり分配金合計
米ドル(毎月)クラス	73,659,050.81米ドル	6.71米ドル	4.17%	0.36米ドル
米ドル(年2回)クラス	55,676,509.17米ドル	11.25米ドル	4.17%	0.00米ドル
円(毎月)クラス	11,031,938,134円	5,229円	-1.84%	360円
円(年2回)クラス	13,274,588,368円	9,223円	-1.83%	0円

(注1)騰落率は、税引前の分配金を再投資したものとみなして算出しています。以下同じです。

(注2)1口当たり分配金額は、税引前の分配金額を記載しています。以下同じです。

管理会社

ウエスタン・アセット・マネジメント・
カンパニー・リミテッド

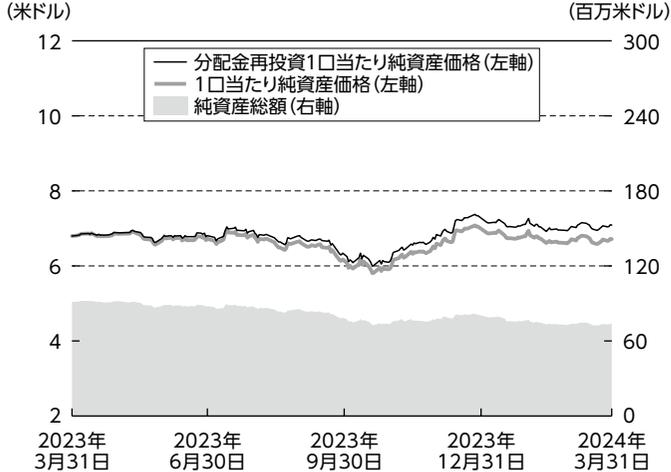
代行協会員

三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社

運用経過

■ 当期の純資産価格等の推移

米ドル(毎月)クラス



1口当たり純資産価格

第8期末	6.80米ドル
第9期末 (1口当たり分配金額)	6.71米ドル (0.36米ドル)
騰落率	4.17%

■ 1口当たり純資産価格の主な変動要因

投資先ファンドの堅調なパフォーマンスを背景に、当期の米ドル(毎月)クラスのパフォーマンス(騰落率)はプラス4.17%(分配金再投資ベース)となりました。投資先ファンドのパフォーマンスについては、後記「<投資先ファンド> ■ 1口当たり純資産価格の主な変動要因」をご参照ください。

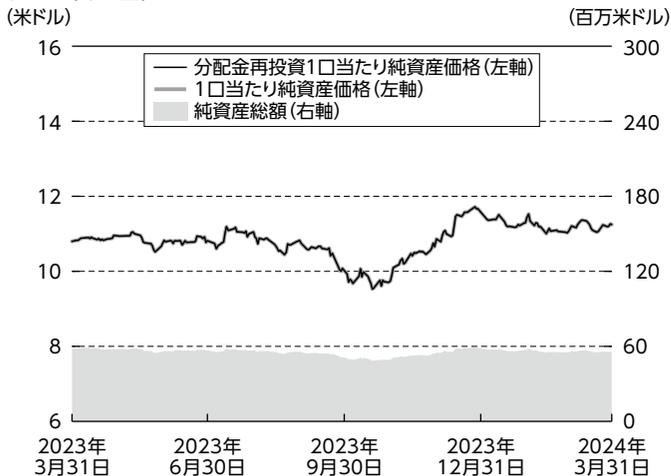
(注1) 分配金再投資1口当たり純資産価格は、税引前の分配金を分配時にファンドへ再投資したとみなして算出したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。以下同じです。

(注2) 分配金再投資1口当たり純資産価格は、第8期末の1口当たり純資産価格を起点として計算しています。以下同じです。

(注3) ファンドの購入価額により課税条件は異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。

(注4) 当ファンドにベンチマークおよび参考指数は設定されていません。

米ドル(年2回)クラス



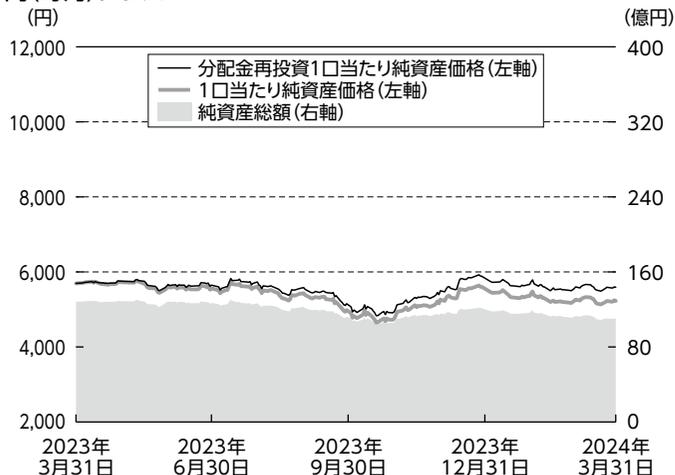
1口当たり純資産価格

第8期末	10.80米ドル
第9期末 (1口当たり分配金額)	11.25米ドル (0.00米ドル)
騰落率	4.17%

■ 1口当たり純資産価格の主な変動要因

投資先ファンドの堅調なパフォーマンスを背景に、当期の米ドル(年2回)クラスのパフォーマンス(騰落率)はプラス4.17%(分配金再投資ベース)となりました。投資先ファンドのパフォーマンスについては、後記「<投資先ファンド> ■ 1口当たり純資産価格の主な変動要因」をご参照ください。

円(毎月)クラス

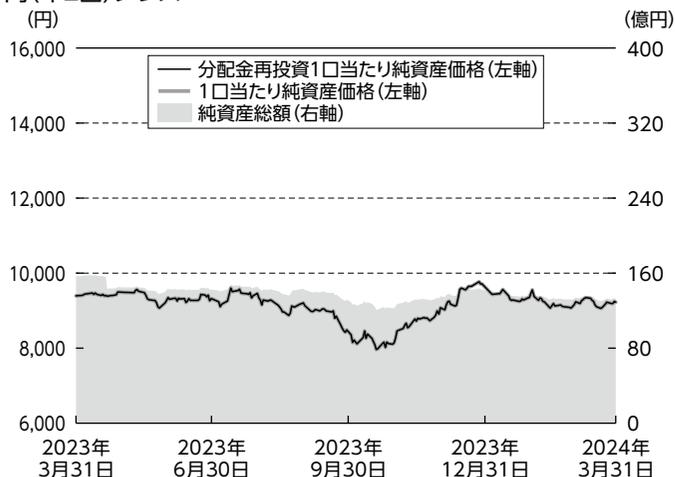


1口当たり純資産価格	
第8期末	5,696円
第9期末 (1口当たり分配金額)	5,229円 (360円)
騰落率	-1.84%

■1口当たり純資産価格の主な変動要因

投資先ファンドの堅調なパフォーマンスがあったものの、為替ヘッジコストの高止まりを背景に、当期の円(毎月)クラスのパフォーマンス(騰落率)はマイナス1.84%(分配金再投資ベース)となりました。期中日本円は対米ドルで約12.1%下落しました。投資先ファンドのパフォーマンスについては、後記「投資先ファンド」■1口当たり純資産価格の主な変動要因」をご参照ください。

円(年2回)クラス



1口当たり純資産価格	
第8期末	9,395円
第9期末 (1口当たり分配金額)	9,223円 (0円)
騰落率	-1.83%

■1口当たり純資産価格の主な変動要因

投資先ファンドの堅調なパフォーマンスがあったものの、為替ヘッジコストの高止まりを背景に、当期の円(年2回)クラスのパフォーマンス(騰落率)はマイナス1.83%(分配金再投資ベース)となりました。期中日本円は対米ドルで約12.1%下落しました。投資先ファンドのパフォーマンスについては、後記「投資先ファンド」■1口当たり純資産価格の主な変動要因」をご参照ください。

※ 為替レートについてはWWM/ロイターロンドン午後4時のレートに基づき計算しています。

<投資先ファンド>

■1口当たり純資産価格の主な変動要因

直近会計年度(2023年1月1日～2023年12月31日)の投資先ファンドの参考リターン(為替ヘッジ前)はプラス15.39%(費用控除前)となりました。2023年10月まではグローバル国債利回りの上昇と高止まりによる純資産価格の下落傾向が継続しましたが、2023年11月からのグローバル国債利回りの低下とリスク資産価格上昇により純資産価格が急速に回復し、通期における純資産価格は結果として大幅なプラスとなりました。

デュレーション／イールドカーブ戦略は、米国に対するデュレーションロングが大きくプラス寄与し、大幅なプラスとなりました。社債への配分は、市場のスプレッドは縮小となったものの、投資適格社債はプラス、ハイ・イールド社債は小幅マイナスとなりました。新興国国債はロシアの金利への配分のマイナス寄与を、メキシコ、ブラジル、インド、インドネシアの金利への配分のプラス寄与が上回り、通貨においてもブラジルレアル・メキシコペソのプラスが主因となり、プラス要因となりました。先進国通貨は、ユーロのショートと円・英ポンドのロングのマイナス寄与が主因となり、全体としてマイナス寄与となりました。直近会計年度はデュレーション／イールドカーブ戦略が最大のプラス要因、次いで新興国への配分も大きなプラス要因となり全体として大幅なプラスとなりました。

■ 費用の明細

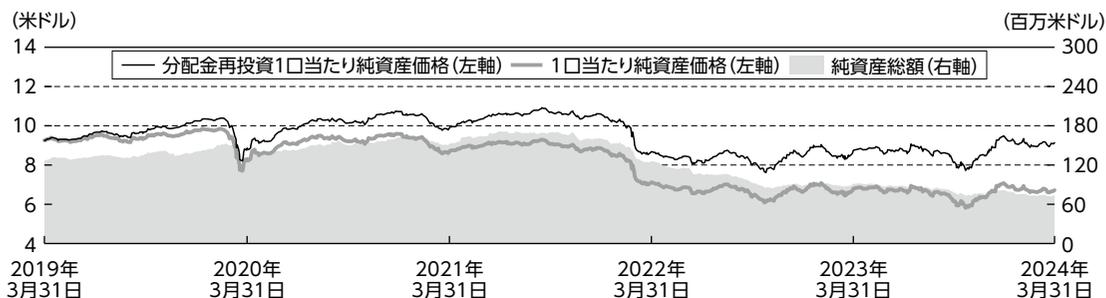
項目	項目の概要	
管理会社報酬	当ファンドに対する管理業務につき当ファンドの純資産価額の 年率0.01% 、当ファンドに対する投資運用業務につき当ファンドの純資産価額の 年率0.01% 。	当ファンドに対する管理業務の対価
受託会社報酬	当ファンドの純資産価額の 年率0.01% (ただし、年間25,000米ドルを最低報酬額とします。)	当ファンドに対する受託業務の対価
管理事務 代行会社報酬	当ファンドの純資産価額の 年率0.01% (ただし、年間30,000米ドルを最低報酬額とします。当初の3クラスを超えて追加されるクラス毎に、年間10,000米ドルの報酬が発生します。)	当ファンドに対する管理事務代行業務の対価
販売会社報酬	当ファンドの純資産価額の 年率0.66%	管理会社から受益証券を購入することおよび日本法に従って日本における投資家によってなされた申込注文を履行すること等への対価
代行協会員報酬	当ファンドの純資産価額の 年率0.05%	当ファンドの目論見書、決算報告書等の販売会社への送付、受益証券1口当たり純資産価格の公表およびこれらに付随する業務の対価
その他の費用・ 手数料 (当期)	0.04%	保管報酬、専門家報酬、その他

(注1)各報酬については、目論見書に定められている料率または金額を記しています。「その他の費用・手数料(当期)」には運用状況等により変動するものや実費となる費用が含まれます。便宜上、当期のその他の費用の金額を当ファンドの当期末の純資産総額で除して100を乗じた比率を表示していますが、実際の比率とは異なります。

(注2)各項目の費用は、当ファンドが組み入れている投資先ファンドの費用を含みません。

■ 最近5年間の純資産価格等の推移

米ドル(毎月)クラス

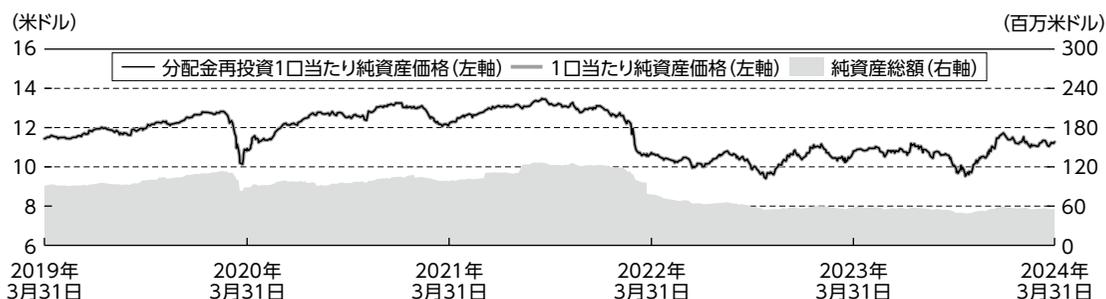


	第4期末 (2019年3月31日)	第5期末 (2020年3月31日)	第6期末 (2021年3月31日)	第7期末 (2022年3月31日)	第8期末 (2023年3月31日)	第9期末 (2024年3月31日)
1口当たり純資産価格 (米ドル)	9.26	8.31	8.64	7.12	6.80	6.71
1口当たり分配金合計額(米ドル)	-	0.60	0.60	0.60	0.36	0.36
騰落率 (%)	-	-4.32	11.02	-11.70	0.78	4.17
純資産総額 (米ドル)	127,304,201.43	131,711,639.07	151,552,969.31	126,105,338.97	91,258,495.09	73,659,050.81

(注1) 分配金再投資1口当たり純資産価格は、第4期末(2019年3月31日)の1口当たり純資産価格を起点として計算しています。以下同じです。

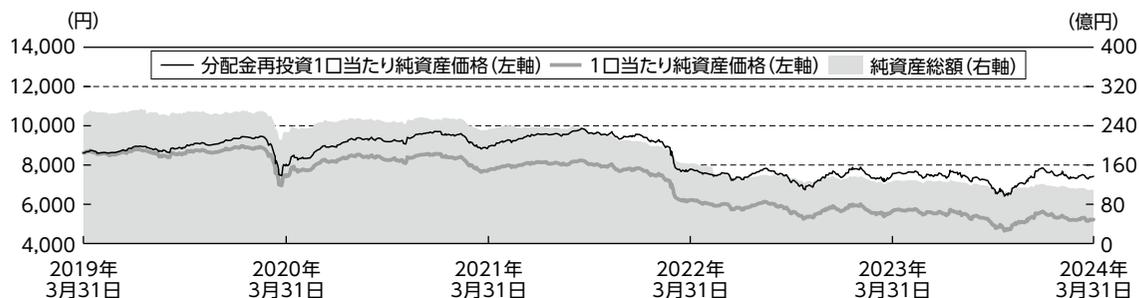
(注2) 当ファンドにベンチマークおよび参考指数は設定されていません。

米ドル(年2回)クラス



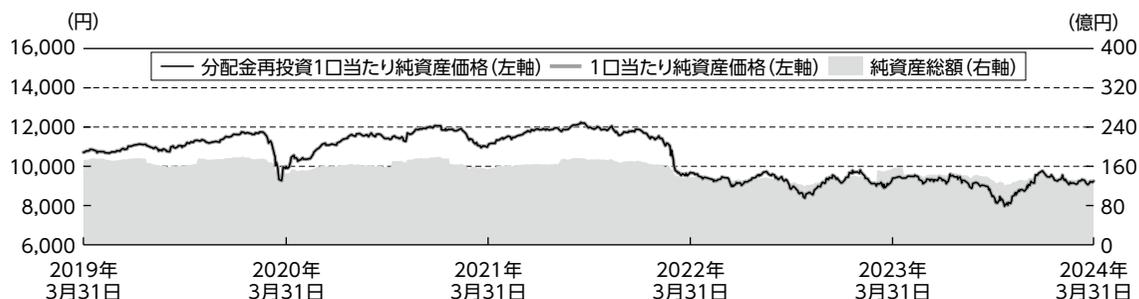
	第4期末 (2019年3月31日)	第5期末 (2020年3月31日)	第6期末 (2021年3月31日)	第7期末 (2022年3月31日)	第8期末 (2023年3月31日)	第9期末 (2024年3月31日)
1口当たり純資産価格 (米ドル)	11.43	10.93	12.15	10.72	10.80	11.25
1口当たり分配金合計額(米ドル)	-	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
騰落率 (%)	-	-4.37	11.16	-11.77	0.75	4.17
純資産総額 (米ドル)	91,562,728.03	89,506,079.99	98,381,379.25	78,022,606.24	58,291,423.78	55,676,509.17

円(毎月)クラス



	第4期末 (2019年3月31日)	第5期末 (2020年3月31日)	第6期末 (2021年3月31日)	第7期末 (2022年3月31日)	第8期末 (2023年3月31日)	第9期末 (2024年3月31日)
1口当たり純資産価格 (円)	8,621	7,497	7,694	6,248	5,696	5,229
1口当たり分配金合計額 (円)	-	600	600	600	360	360
騰落率 (%)	-	-6.73	10.41	-12.21	-2.98	-1.84
純資産総額 (円)	26,439,657,494	22,738,113,390	23,149,506,392	16,417,326,872	12,821,359,169	11,031,938,134

円(年2回)クラス



	第4期末 (2019年3月31日)	第5期末 (2020年3月31日)	第6期末 (2021年3月31日)	第7期末 (2022年3月31日)	第8期末 (2023年3月31日)	第9期末 (2024年3月31日)
1口当たり純資産価格 (円)	10,711	9,990	11,030	9,684	9,395	9,223
1口当たり分配金合計額 (円)	-	0	0	0	0	0
騰落率 (%)	-	-6.73	10.41	-12.20	-2.98	-1.83
純資産総額 (円)	17,274,111,978	14,661,961,677	15,442,612,709	13,904,216,940	15,662,167,111	13,274,588,368

■ 投資環境について

当期においては世界的に経済成長が減速し、インフレ率も世界的に総じて低下しています。米国と欧州においては金融環境が引き締まっているものの、多くの国で製造業およびサービス業の需要が減退する兆しが確認され、中国でのデフレ圧力がみられることもあり、世界的なインフレ圧力の緩和につながっています。

当期の前半期はインフレの根強い持続と堅調な経済指標が示す景気の底堅さを背景に、グローバル国債利回りの上昇と高止まりが継続しました。2023年10月には10年および30年米国債利回りが、世界金融危機以降で初めて5%の大口を突破しました。

しかし、2023年11月になると米国での労働市場の冷え込みの兆しとインフレ圧力の弱まりが確認され、英国・欧州でもインフレが予想以上に減速し、デフインフレ基調の拡大が確認されました。さらに、世界の主要中央銀行のハト派的なコメントや既に十分に金融引き締めが行われたとの楽観論や、今後の金融緩和観測により、追加利上げが織り込まれ、2024年中の利下げが期待されるようになりました。これにより、グローバルに利回りは低下し、リスク資産価格は上昇しました。

当期の後半期は米国での雇用およびインフレ関連データ強弱はあるものの、世界的に経済成長が減速しインフレ率も総じて低下する傾向がみられました。2024年内に政策金利の引き下げ開始を市場が織り込み、景気に対する楽観的な見方も広がったことにより、先進国国債利回りは低下基調が続き、リスク資産価格は上昇しました。

米連邦公開市場委員会(FOMC)の3月会合では政策金利(FF金利)の誘導目標は5会合連続の据え置きだったものの、欧州中央銀行(ECB)のラガルド総裁が6月に利下げ開始の可能性を示唆したことや英国の中央銀行の利下げに反対の姿勢ではないとの示唆もあり、グローバルで利下げに転じる傾向が見られました。また、経済の底堅さを示す兆候が幅広く見られたことで、投資適格社債とハイ・イールド社債およびエマージング債券は、セクターのスプレッドが縮小し、堅調なパフォーマンスを示しました。

当期末においても世界的に経済成長はゆるやかな減速が続いていますが、企業のバランスシートなどファンダメンタルズは比較的底堅く推移しています。特にハイ・イールド社債のスプレッドと利回りはまだ比較的魅力的な水準にあります。日本を除く各国主要中央銀行の今後の利下げにより、当面の引き締めの金利水準が続くものの、先進国国債利回りについては低下基調となり、米ドルは小幅下落すると予想します。一方、エマージング市場は、米国の経済指標が安定的なベースシナリオに沿った形となっているため、キャリートレードにとって都合のいい環境が整っており、継続的な回復が見込まれます。また、バリュエーションも引き続き魅力的であると考えます。

■ ポートフォリオについて

<当ファンド>

当ファンドは、投資先ファンドへの投資を通じて、トータル・リターンを最大化を目指した運用に努めてまいりました。当期の運用においては、期を通じて、投資先ファンドの高位組入れを維持しました。

<投資先ファンド>

直近会計年度(2023年1月1日～2023年12月31日)において、投資先ファンドは、投資の自由度が高い運用方針のもと、投資環境に応じて魅力的な運用戦略を構築しつつ、債券や通貨以外にもデリバティブ(オプションや先物等)を用いて機動的にリスクを配分しました。

中長期的戦略としては、一貫して投資適格社債、ハイ・イールド社債において金融、エネルギーをコア資産として保有しました。また、新興国債の保有や先進国・新興国通貨の為替戦略へも配分しました。

短期的戦略では、市場環境や投資機会の変化を捉え機動的な収益機会を追求するとともに、資産間の相関を考慮しながらポートフォリオ全体のリスク管理を行いました。金利戦略として、引き続き機動的なデュレーションの調整を行っております。

■ 分配金について

当期(2023年4月1日～2024年3月31日)の1口当たり分配金(税引前)はそれぞれ下表のとおりです。なお、下表の「分配金を含む1口当たり純資産価格の変動額」は、当該分配落日における1口当たり分配金額と比較する目的で、便宜上算出しているものです。

米ドル(毎月)クラス

(金額:米ドル)

分配落日	1口当たり純資産価格	1口当たり分配金額 (対1口当たり純資産価格比率 ^(注1))	分配金を含む1口当たり 純資産価格の変動額 ^(注2)
2023年4月17日	6.79	0.03 (0.44%)	0.38
2023年5月16日	6.83	0.03 (0.44%)	0.07
2023年6月15日	6.72	0.03 (0.44%)	-0.08
2023年7月18日	6.88	0.03 (0.43%)	0.19
2023年8月15日	6.57	0.03 (0.45%)	-0.28
2023年9月15日	6.50	0.03 (0.46%)	-0.04
2023年10月16日	6.01	0.03 (0.50%)	-0.46
2023年11月15日	6.32	0.03 (0.47%)	0.34
2023年12月15日	6.95	0.03 (0.43%)	0.66
2024年1月16日	6.81	0.03 (0.44%)	-0.11
2024年2月15日	6.67	0.03 (0.45%)	-0.11
2024年3月15日	6.62	0.03 (0.45%)	-0.02

(注1)「対1口当たり純資産価格比率」とは、以下の計算式により算出される値であり、各クラスの収益率とは異なる点にご留意ください。

$$\text{対1口当たり純資産価格比率 (\%)} = 100 \times a / b$$

a=当該分配落日における1口当たり分配金額

b=当該分配落日における1口当たり純資産価格+当該分配落日における1口当たり分配金額

以下同じです。

(注2)「分配金を含む1口当たり純資産価格の変動額」とは、以下の計算式により算出されます。

$$\text{分配金を含む1口当たり純資産価格の変動額} = b - c$$

b=当該分配落日における1口当たり純資産価格+当該分配落日における1口当たり分配金額

c=当該分配落日の直前の分配落日における1口当たり純資産価格

以下同じです。

(注3)2023年4月17日の直前の分配落日(2023年3月15日)における1口当たり純資産価格は6.44米ドルでした。

米ドル(年2回)クラス

当期中の分配金は0.00米ドルでした。

円(毎月)クラス

(金額:円)

分配落日	1口当たり純資産価格	1口当たり分配金額 (対1口当たり純資産価格比率)	分配金を含む1口当たり 純資産価格の変動額
2023年4月17日	5,672	30 (0.53%)	308
2023年5月16日	5,687	30 (0.52%)	45
2023年6月15日	5,562	30 (0.54%)	-95
2023年7月18日	5,661	30 (0.53%)	129
2023年8月15日	5,370	30 (0.56%)	-261
2023年9月15日	5,276	30 (0.57%)	-64
2023年10月16日	4,819	30 (0.62%)	-427
2023年11月15日	5,058	30 (0.59%)	269
2023年12月15日	5,537	30 (0.54%)	509
2024年1月16日	5,390	30 (0.55%)	-117
2024年2月15日	5,240	30 (0.57%)	-120
2024年3月15日	5,162	30 (0.58%)	-48

(注)2023年4月17日の直前の分配落日(2023年3月15日)における1口当たり純資産価格は5,394円でした。

円(年2回)クラス

当期中の分配金は0円でした。

今後の運用方針

<当ファンド>

当ファンドは今後も、投資先ファンドへの投資を通じて、主として世界の債券および通貨(デリバティブ等を含む)に実質的な投資を行い、市場環境や投資機会の変化を捉えながら投資対象や配分等を機動的に変更することで、長期的にトータル・リターンを最大化を追求します。今後も当ファンドは運用方針に従い、投資先ファンドへの投資を高位に保ちます。

<投資先ファンド>

世界的な経済成長は鈍化し、世界のインフレ率もおおむね後退していると思われれます。中国の継続的なデフレ圧力、欧米の金融引き締め、複数の国での製造業とサービス業の需要低下などを背景に、世界的なインフレ上昇圧力は緩和されつつあります。

投資先ファンドでは、こうした傾向と主要中銀が慎重かつ段階的な金融緩和策を推進していることが相まって、世界経済の成長とインフレをさらに抑制し、ひいては先進国国債利回りの低下と小幅な米ドル安につながると予想しております。

現在、エマージング債券、ハイ・イールド社債、バンクローン、MBSの一部といったスプレッド・セクターは、魅力的な利回りを提供していますが、マクロ環境に対するセンチメントの予期せぬ変化や、地政学的動向、政策金利の道筋に関する不確実性に対して脆弱であるとみているため、投資先ファンドでは、前向きなファンダメンタルズの見通しを基本としつつ、様々なマクロイベントに起因するダウンサイドリスクが生じる可能性についても慎重な姿勢を維持しながら、魅力的な投資機会を機動的に捉えることができる柔軟性のあるポートフォリオ構築を行う方針です。具体的には金利変動に応じた米国のデュレーション短期化と長期化、クレジットにおけるハイ・イールド社債より投資適格社債の選好、リスク管理の観点から金利が上昇した国の新興国債券/通貨の選別またはポジション縮小を行う方針です。これらはグローバルポートフォリオのリスクヘッジとしても有効と考えます。

お知らせ

該当事項はありません。

当ファンドの概要

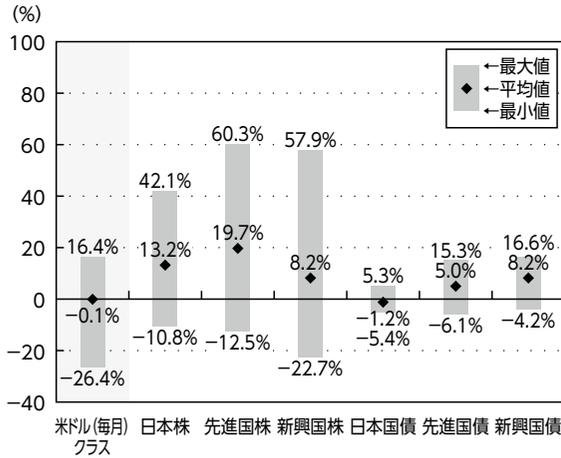
ファンド形態	ケイマン籍オープン・エンド契約型公募外国投資信託
信託期間	当ファンド設立日(2015年7月23日)から150年目の14日前まで
運用方針	当ファンドの投資目的は、主としてその資産を投資先ファンドに投資することにより、長期のトータル・リターンを受益者に提供することを追求することです。投資先ファンドの投資目的は、規律ある運用に基づく長期的なトータル・リターンの最大化です。
主要投資対象・ ファンドの運用 方法	<p>当ファンドは、実質上そのすべての資産(当ファンドが短期投資対象、現金および現金等価物に投資する資産を除きます。)を投資先ファンドに投資します。</p> <p>投資先ファンドにおいては国際機関、米国および米国以外の政府・政府機関により発行または保証される米ドルまたはその他の通貨建ての各種証券(新興市場発行体の証券を含みます。)に投資することができ、債券、金利、商品、先物、先渡し、スワップ、各種オプション等に係るデリバティブ取引を締結することができます。米ドル建て以外の証券は、通貨ヘッジの有無を問わず保有されることができません。</p> <p>投資先ファンドにおいては、通常、投資先ファンドの純資産総額(購入の時点で測定されます。)の(i)75%以下を、非米ドル建て証券、(ii)50%以下を、ヘッジされない非米ドル建て証券、非米ドル通貨および非米ドル通貨取引、(iii)50%以下を、購入の時点で投資適格を下回る格付けの発行体の証券、また(iv)50%以下を、新興市場発行体により発行される証券に投資することが想定されています。</p> <p>通常の市況において、投資先ファンドの加重平均実効デレューション(先物ポジションを含みます。)は、マイナス5年間からプラス10年間の範囲となることが予想されますが、投資運用会社の裁量において、上記の予想範囲を外れる場合があります。</p>
投資制限	<p>(i) 当ファンドに関して空売りされる証券の時価総額は、いずれの時点においても、当ファンドの純資産価額をそれぞれ超えないものとします。</p> <p>(ii) 借入れは、その結果として、未払の借入総額が当ファンドの純資産価額の10%を超えることになる場合に禁止されます。ただし、合併など臨時的緊急事態にある場合は、かかる10%の制限を一時的に超えることができます。</p> <p>(iii) 当ファンドは、その取得または保有を行った結果として、管理会社により運用される当ファンドおよびすべてのファンドが保有する株式の議決権総数が、1発行会社の株式の議決権の50%を上回る場合は、かかる会社の株式を取得または保有しません。かかる制限は、その他の投資ファンドに対する投資(当ファンドによる投資先ファンドへの投資を含みます。)には適用されません。上記の比率は、購入の時点または現行の市場価格に基づいてのいずれかで算出できます。</p> <p>(iv) 当ファンドは、日本証券業協会の外国証券取引に関する規則(その後の改正または改訂を含みます。以下「日証協規則」といいます。)により要求される価格の透明性を確保する適切な措置が講じられない限り、その純資産価額の15%を超えて、私募証券、非上場証券または不動産などの容易に実現できない非流動資産に投資しません。上記の比率は、購入の時点または現行の市場価格に基づいてのいずれかで算出できます。</p> <p>(v) 当ファンドまたは投資先ファンドを代理して実行される、(1)投資運用会社もしくは投資先ファンドの受益者もしくは株主以外のその他の第三者(場合に応じて)の利益をはかることを主な目的とし、(2)投資先ファンドの受益者もしくは株主(場合に応じて)の保護に相反し、または(3)当ファンドもしくは投資先ファンドの資産の運用の適正を害する可能性のある取引は、いずれも禁止されます。</p> <p>(vi) 日証協規則に従って、当ファンドまたは投資先ファンドは、投資運用会社により信用リスク(当ファンドまたは投資先ファンドが保有する有価証券およびその他の資産に関する取引の相手方の債務不履行その他の理由により発生し得る危険をいいます。)を適切に管理し、統制する方法として事前に決定された合理的な方法に反する取引を行うことはできません。</p> <p>(vii) 当ファンドはデリバティブ取引等を行いません。ただし、投資先ファンドがデリバティブ取引を行うことは妨げられません。</p>
分配方針	<p>管理会社は、その裁量により、分配金の支払をすることができます。</p> <p>当ファンドが利用可能な現金を有する限りにおいて、米ドル(毎月)クラスおよび円(毎月)クラスについては毎月15日(または当該日が営業日ではない場合は、翌営業日)に、米ドル(年2回)クラスおよび円(年2回)クラスについては毎年3月および9月の15日(または当該日が営業日ではない場合は、翌営業日)に分配することができます。</p>

参考情報

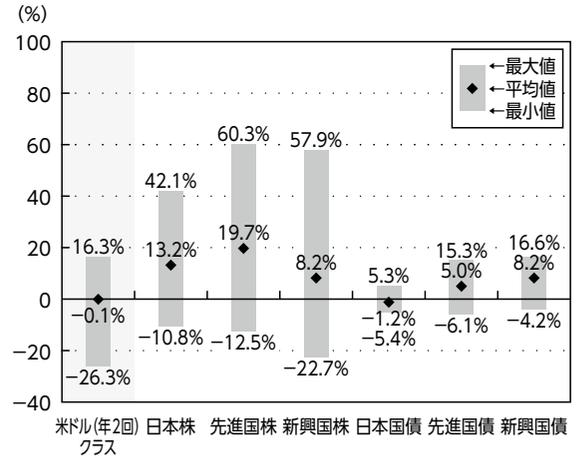
■ 当ファンドと代表的な資産クラスとの年間騰落率の比較

このグラフは、当ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したもので、2019年8月～2024年7月の5年間における年間騰落率(各月末時点)の平均と振幅を、当ファンド(表示通貨ベース)と代表的な資産クラス(円ベース)との間で比較したものです。

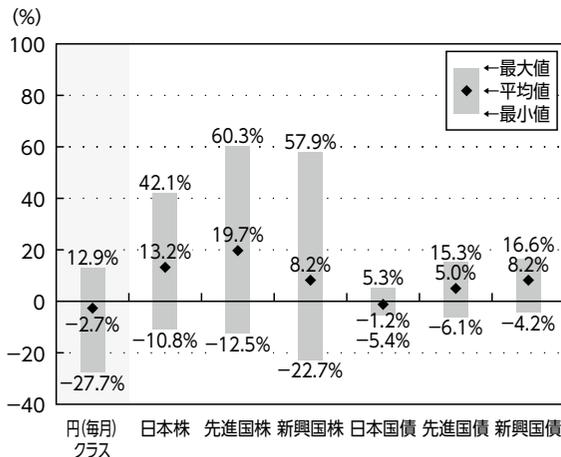
米ドル(毎月)クラス



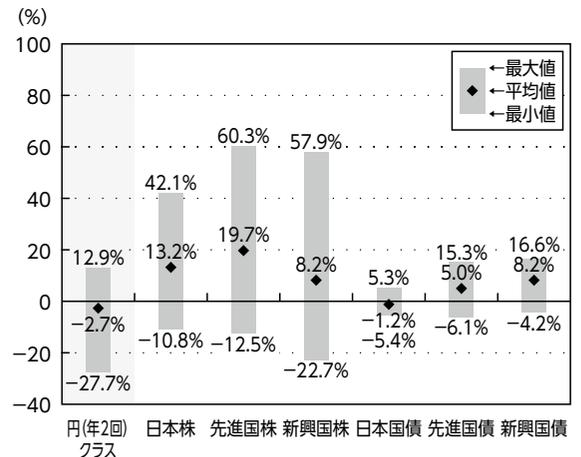
米ドル(年2回)クラス



円(毎月)クラス



円(年2回)クラス



出所: Bloomberg L.P.および指数提供会社のデータを基に森・濱田松本法律事務所が作成

- ※分配金再投資1口当たり純資産価格は、税引前の分配金を当ファンドへ再投資したとみなして算出したものです。
- ※当ファンドの年間騰落率(各月末時点)は、各月末とその1年前における分配金再投資1口当たり純資産価格を対比して、その騰落率を算出したものです。設定から1年未満の時点では算出されません。
- ※代表的な資産クラスの年間騰落率(各月末時点)は、各月末とその1年前における下記の指数の値を対比して、その騰落率を算出したものです。
- ※当ファンドと代表的な資産クラスとの年間騰落率の比較は、2019年8月～2024年7月の5年間の各月末時点における年間騰落率を用いて、それらの平均・最大・最小をグラフにして比較したものです。
- ※当ファンドの分配金再投資1口当たり純資産価格および年間騰落率は、実際の1口当たり純資産価格およびそれに基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。
- ※当ファンドの年間騰落率は、各受益証券の表示通貨建てで計算されており、米ドル(毎月)クラスおよび米ドル(年2回)クラスについては円貨に換算されておりません。したがって、円貨に換算した場合、上記とは異なる騰落率となります。
- ※当ファンドは代表的な資産クラスの全てに投資するものではありません。

●各資産クラスの指数

- 日本株・・・TOPIX(配当込み)
 - 先進国株・・・FTSE先進国株価指数(除く日本、円ベース)
 - 新興国株・・・S&P新興国総合指数
 - 日本国債・・・ブルームバーグE1年超日本国債指数
 - 先進国債・・・FTSE世界国債指数(除く日本、円ベース)
 - 新興国債・・・FTSE新興国市場国債指数(円ベース)
- (注)S&P新興国総合指数は、Bloomberg L.P.で円換算しています。

TOPIX(東証株価指数)の指数値およびTOPIXに係る標章または商標は、株式会社JPX総研または株式会社JPX総研の関連会社(以下「JPX」といいます。)の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用などTOPIXに関するすべての権利・ノウハウおよびTOPIXに係る標章または商標に関するすべての権利はJPXが有します。JPXは、TOPIXの指数値の算出または公表の誤謬、遅延または中断に対し、責任を負いません。FTSE先進国株価指数(除く日本、円ベース)、FTSE世界国債指数(除く日本、円ベース)およびFTSE新興国市場国債指数(円ベース)に関するすべての権利は、London Stock Exchange Group plcまたはそのいずれかのグループ企業に帰属します。各指数は、FTSE International Limited、FTSE Fixed Income LLCまたはそれらの関連会社等によって計算されています。London Stock Exchange Group plcおよびそのグループ企業は、指数の使用、依存または誤謬から生じるいかなる負債について、何人に対しても一切の責任を負いません。

ファンドのデータ

■ 当ファンドの組入資産の内容

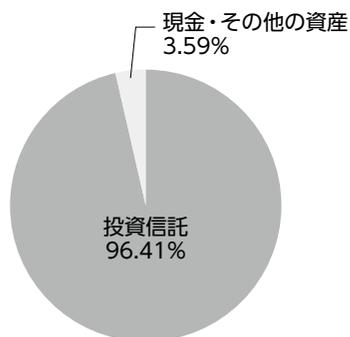
(第9期末現在)

● 組入上位資産 (組入銘柄数: 2銘柄)

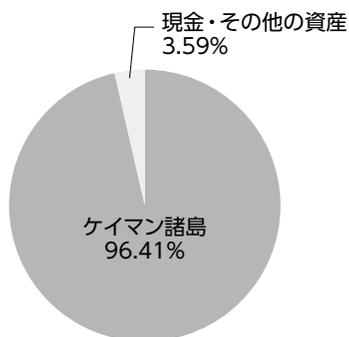
	銘柄名	組入比率 (%)
1	Western Asset Macro Opportunities Alternatives Fund, Ltd. JPY	54.22
2	Western Asset Macro Opportunities Alternatives Fund, Ltd. USD	42.19

(注) 組入比率は純資産総額に対する各組入資産の評価額の割合です。以下のグラフも同じです。

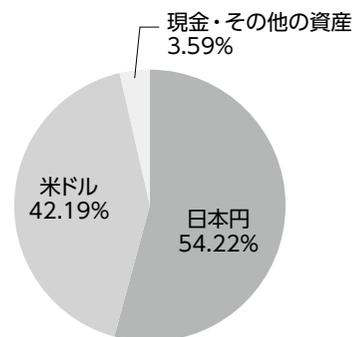
● 資産別配分



● 国別配分



● 通貨別配分



(注1) 組入比率は、運用報告書(全体版)に記載されている財務書類中の比率とは異なる場合があります。

(注2) 組入全銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載されています。

■ 純資産等

クラス名	第9期末		
	純資産総額	発行済口数	1口当たり純資産価格
米ドル(毎月)クラス	73,659,050.81米ドル	10,984,035口	6.71米ドル
米ドル(年2回)クラス	55,676,509.17米ドル	4,948,926口	11.25米ドル
円(毎月)クラス	11,031,938,134円	2,109,671口	5,229円
円(年2回)クラス	13,274,588,368円	1,439,222口	9,223円

クラス名	第9期		
	販売口数	買戻口数	発行済口数
米ドル(毎月)クラス	249,727 (249,727)	2,688,975 (2,688,975)	10,984,035 (10,984,035)
米ドル(年2回)クラス	255,830 (255,830)	702,341 (702,341)	4,948,926 (4,948,926)
円(毎月)クラス	113,500 (113,500)	254,898 (254,898)	2,109,671 (2,109,671)
円(年2回)クラス	67,753 (67,753)	295,600 (295,600)	1,439,222 (1,439,222)

(注1) ()は本邦内における販売・買戻しおよび発行済口数です。

(注2) 上記の口数は、監査済の財務書類に基づく口数です。

■ 投資先ファンドの概要

(2023年1月1日～2023年12月31日)

WA マクロ・オポチュニティーズ オルタナティブス・ファンド・エルティエディー

● 1口当たり純資産価格の推移

<米ドルクラス>



<円クラス>



● 保有銘柄情報

(組入銘柄数: 354銘柄(デリバティブ取引を除きます。))

上位保有10銘柄		対純資産総額比率(%)
1	DREYFUS QII GOV CASH MGMT	10.05
2	MEXICAN BONOS 7.75 11/42	5.11
3	INTERAMER DEV BK 7 4/33	4.65
4	US TREASURY N/B 1.25 5/50	3.95
5	POLAND GOVT BON 1.75 4/32	3.37
6	INDONESIA GOV'T 8.25 5/29	2.99
7	G2SF 6 1/24	2.50
8	REP SOUTH AFRIC 6.25 3/36	2.33
9	FNCL 6 1/24	2.08
10	EURO BK RECON&D 7.05 8/33	1.67

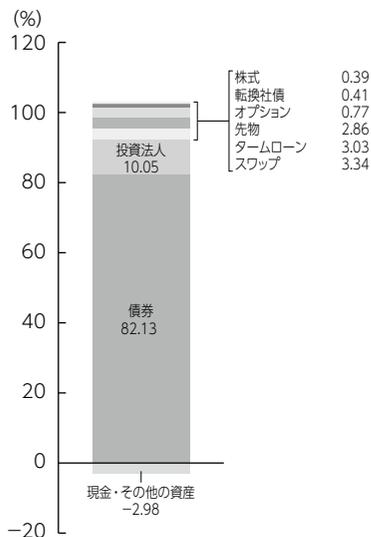
(2023年12月31日現在)

●費用の明細

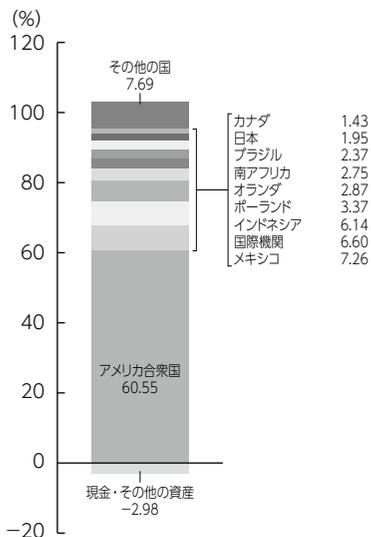
(2023年1月1日～2023年12月31日)

項目	金額
管理報酬	2,849,053米ドル
保管報酬	160,001米ドル
管理事務代行、会計および名義書換事務代行報酬	87,489米ドル
専門家報酬	88,301米ドル
ローン・サービシング報酬	34,499米ドル
その他	2,001米ドル

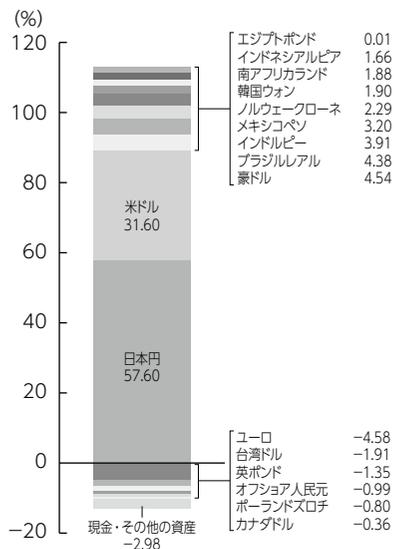
●資産別配分



●国別配分



●通貨別配分



(2023年12月31日現在)

(注) 資産別・国別・通貨別の比率は、投資先ファンドの純資産総額に対する当該資産の評価額の割合です。